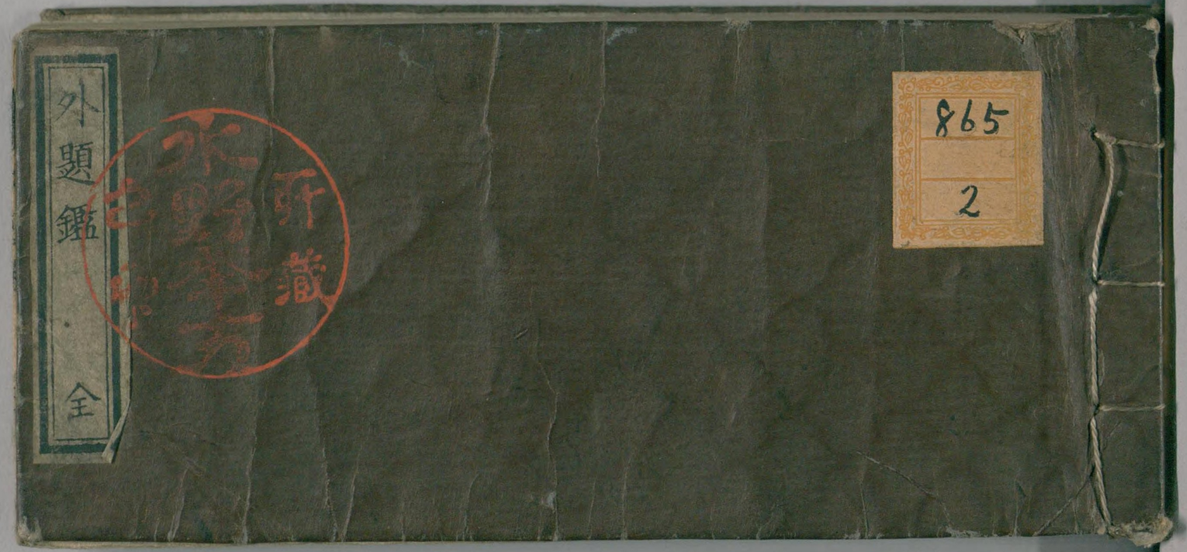


国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

外題鑑

文溪堂藏

國立圖書館
昭 24. 3. 29

叙

茲ゟ東都の書林二世文溪堂主人ゟ請の書籍を周旋せ髪おを労り
すゑ事毎歳ゟ猶世ゟ
称ゟ音ずれ書を撰り人
乆ゟ要あるゟの必ず書写し
或ゟ棒ゟ上ゟ是を記して
出像神史物の本紙巻くに
出情ゟまゝは所蔵の賜おを
ゟゟぐ三都の新著も漏ゟ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2

ガラス使用

事なく捌くよう多数の積もり
依って諸国の好き書肆にて信牌
をさだめ事朱公を引いて其
業繁昌両国の人こゝに有る乃
書物ゆんで絵えりて先代
の品々絵ついの頭縮
を摺筆一最細くる再版も
図ちがくく甚悪毎の玄味
を書記して稗史好の記憶を
助く此故よ長編六部の物
の本ざ千里に懐中させく

衆人娯楽ましむ凡此小冊
を助く和漢の軍記
萬巻の雑書稗史等を庶
幾有がやう僕文漢書を読
氏の丹心を感悦のあまり粗
筆よ補助加之校訂の
全なさせう十方墳書の諸
君達書賈文漢書を這
書を撰集する苦心看官
の為よ忠信をして雑事
ろぐくよ永久書肆の安穏あらせ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

865
2

軍記の部

前太平記圖會　全六冊

人皇二十六代醍醐帝延喜七年より近衛院の治世まで二百甲余年の間武將の孫王經基より源の姓賜はりて最初より源平両家の軍事委敷記して画を加へたり

保元平治圖會　全十巻

七十七代後白河院の御宇福門院の御作行状崇徳新院の恨みふかより天下大乱となるの始末なり平家の勢ひ盛となりて源平両家の軍事委敷記して画を加へたり

源平盛衰記圖會　全六冊

なまこ壁の蔵

于時天保九年戊戌
仲秋吉辰
東都　蓮池庵
教訓老人　鵜鷸貞高

譯斯中藩
青龍

猶此業半に滿さゝる退かするとき事年々山陵の記著をなし追々補刻せし旦後編のハ中納言情滑稽まで筆を盡くさゝりてをきよ發行せんとき

書者　文溪堂琴秀誌

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

二條院應保年中より安徳帝の壽永の頃まで凡そ二十余年の間の古文書を多く記せり

義経勲功圖會 前五冊 後五冊

牛若丸と申せし時よりそだちと鞍馬山へ登り剣術と共にあらゆる後は鬼一法眼の軍法伝授うけて一代の功名かくまでさかえしまでを委しく画解とせるものなり

義仲勲功圖會 前 後 十 巻

木曽義仲は平家を討ち源家の恥眉をすゝぎ大功実に頼朝義経の功にもまされりといえども頼朝の奸心ふかくして其盛衰短くいさぎよく旭将軍の威名高き一代の功をよくしるせり

絵本鎌倉太平記 前 後 十二巻

北条家執権職九代の間の治乱興廃ならびに泰時の仁政高時の暴悪をつゝまらく記せり

絵本星月夜顕晦録 當時焼板

頼朝公三代の間の君臣の得失ならびにつゝの事跡をよくしるせり

絵本和田軍記 前 後 十二冊

和田の義盛は鎌倉無二の智勇にしてその一族九十三騎忠烈ふかく入あり又ゝ口惜き北條の悪逆邪智をしるされども武勇のまさるをよくしるせり画解とゝのえり

絵本曽我物語 全十冊

祖成時宗ゞ歌討をまくん

鎌倉新語　初編五冊

星月夜と同じものがたり

繪本平泉實記　前後十二巻

頼朝奥州征伐の事をしるしたるもの

太平記圖會　初編八巻

人皇九十五代後醍醐天皇乃即位より九十九代後光嚴院の治世まで凡四十余年の間忠臣孝子の傳まで加へらるゝ軍記ゆゑ本朝無双の名記なり

繪本楠公記　三編揃三十巻

日本武略の第一智仁勇の名将楠正成の忠烈奇軍太平記ゆゑ

記ゆゑそのとおりをもしるしたるなり

楠正行戦功圖會　前後十一冊

正成の男正行父の遺訓を守りて南朝の忠臣となり軍畧奇兵をもちゐ足利勢をやぶり戦功美談いと多きゆゑ其あらましを圖繪をかゝげたり

南北朝軍物語　全五冊

おもに太平記を繪解にしたるもの

繪本應仁記　初二三編　十五冊出来

足利将軍義政公政事のみだれより應仁の大乱義昭将軍信長が天下を奪ふまで

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

すべて百余年の争戦を考ふ
高井蘭山輯
江戸 溪齋英泉圖

見聞雜記 清正公真傳記 全六冊
感德院殿御事蹟 清正公の幼立より一代の武功を圖繪とも

繪本甲越軍記 三編揃 三十六巻
甲越両國の智勇を競ふ古今無双の軍書なり

繪本朝鮮軍記 前後十冊
九州の名家菊地家の武功をつゞむくるもの

大内義隆軍記 全六冊
周防山口の大内家の軍記なり

但し作り物語なり

大田道灌雄飛錄 全六冊
一代の武功を繪入物がたり

繪本里見軍記 全十巻
南総

大内の書八里見氏の起原上野の國にある里見村の由来よりはじめて足利代々の武功安房上総下総の三國を攻取の始末を委く五十余箇城の大守と仰がれ関東小美名高く仁を施し義をすゝめ文武の臣孝子烈婦多くの美談凡八州の名所古跡里見家にゆかりあるをことごとく挿絵なして中興の元祖義實の徳行いふもさらなり後年馬の墓の城の合戦北条氏と争ひ虚実互に田原の

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

なあぶせ秩父殿」と武蔵の諸士を
あつめ義戦をとなえ太田
道灌の子孫太田源吾同源六の
勇力里見氏と合体して小田原
勢と打破るの功戦数代連綿とつづ
たる事実をさく記すのみ

東陽斎主人輯録

復仇并忠誠實録の部

繪本忠臣蔵　前後二十冊

四十七人の義士の傳を諸書より
あつめてかなしく物語あり

繪本雪鏡譚　全十二巻

加賀見山の實録に國諸士の
美悪をまぜかき記せり

繪本金花譚　全十二冊

頼兼ぬし卿通ひ文治高屋のつぼ
をそこめて政岡の忠義又仁木弾正の奸智ホセをて武門の用心とあるべきものあり

繪本霊験記　全十冊

毛谷村六助仇討のものがたり

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2

ガラス使用

繪本伊賀越　全七冊
渡邊數馬唐木政右エ門の助太刀
まそ沢井又五郎どとゝめ大勢の
仇を討めぐりゝ

忠孝美善録　前後十冊
伊賀越の後日ともいふべき仇討ゝ

繪本英雄記　全十冊
二島

繪本荒川仁勇傳　全十冊

同復仇孝勇譚　全八冊

同誠忠傳　全十冊

同則定仁コ男傳　全八冊

同白石噺　全六冊

繪本神靈記　全十冊
金毘羅
田宮坊太郎が金比羅のヨ八驗ふ
て大敵を討ゝるめぐり

繪本淺草靈驗記　全十冊
世にひゝたゝくる乙川の血なま
ものがたり

繪本箱根靈驗記　全六冊
世俗いぎりの仇討とゝひたゝふ

繪本亀山話　全十冊
世あゝ石井明道士とも名ぶくゝち

繪本合邦辻　全十冊
加州高橋氏の後仇美談ゝり

茶店墨江草紙　全九冊
殿下茶屋の繪本あり

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

同會誓松の雪　全七冊

西國孝義録　全十冊
幼婦順礼

繪本雙忠録　全十冊

豪傑勲功録　全十冊

繪本顯勇録　全十冊

諸家新編　稗史之部

飛田匠物語　全六冊
六樹園大人著
葛飾北齋翁画

世の人口に傳りる左甚五郎の故由を思ひよせて番匠の奇巧人の命を救ひまた唐國の人と智巧くらべに勝まる業を感せしめ其外大工の故実にいたるまでくわしく記しあいむきの國竹芝の故事頭科日記の文雅おもしろく奇談あどすべて珍しきおもむきなり綴らまでうこのよふな本の後文をあらふかどともあるべし

東嫩錦　全五冊
小枝繁著

こまへ東の仇討あて多く実録ふうにつゞり作らまでれバいつものよふに

うんとくかんおんこふうそめん古風そめん人情どこまやうふぜう　全五冊　馬琴作

双蝶々白糸草紙　全五冊　菊藥亭作

敵討松山話　全六冊　立川焉馬作

近江縣物語　全六冊　六樹園著

繪本妹背山　全六冊　振鷺亭作

田村物語　全六冊　川上老人作

千代能七変化物がたり　全五冊　振鷺亭作

俊德丸　全五冊　同作

月宵鄙物語　前後十冊　真顏大人作

桜久松山物語　全五冊　馬琴作

勢田橋龍女本地　全三冊　種彦作

忠孝連理片袖　全五冊　一九作

長柄長者萬塚　全六冊　鬼卯作

松王物語　全六冊　小枝繁作

侭馬樂奇談　全六冊　同作

天橋立　全五冊　一九作

金花夕映　全五冊　谷峨作

自来也物語　前後十一卷　鬼武作

漂注その雪　全五冊　馬琴作

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

石言遺郷　曲亭主人作　全六冊

遠江の國佐夜の中山ふもとに夜泣石のことを種として菊川の里の奇談おかしくあはれおかしろき物がたりなり

柳の糸　全五冊　小枝繁作

新累解脱物語　全五冊　馬琴作

斯波連説　七長臣　全六冊　谷峨作

窓螢餘談　全六冊　琴魚作

小櫻姫　前編五巻　京傳作

小櫻姫　後編五巻　琴魚作

前後ともに描きそれりろし

國字鵺物語　全五巻

荀藥亭長根作　葛飾北齋画

頼政鵺を退治せし弓矢の図まで高くその鵺にようて種々の奇談を新に説まする因果物がたりさすがの狂歌の大人も戯作者の及ぶ所にあらず文章一家の狂風あらわれ小視ゆる草紙ながら惜いかな駄本焼失の後捲巻と者とまれなり

菖蒲草艸五月雨　全三冊

文東陳人著編

六波羅落と發端とて作る物がたり此駄本も今ハあー

千代物語　前後十冊

百合若埜居鷹島萬亭作　全五冊

世小諺百合若十日眠の物がたり

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2

ガラス使用

松風村雨物語　前後十巻　文東陳人作　歌川國直画　溪齋英泉画

行平朝臣因幡の任うち須磨乃浦ふりそふの事跡古今にもためしき奇談なり

蟾蜍蛇物語　全五冊　全亭主人作　溪齋英泉画

金鈴橘草紙　全五冊　同作同画

風狸傳　全五冊　柳亭種彦校

忠孝顯名録　全六冊

放下僧物語　全四冊

車僧物語　全五冊

雙名傳　全五冊

北若丸一代記　全四冊

泉近傍物語　全五巻　福地鬼外著

一名小大嶋軍記ともいふその趣向一除別ぬそなりろー

繪本泥赤亭　全十巻

新田義助泥香亭に入の奇談まきえめの首に奇術をたくみその異説後のハ南朝合戦のありさまを記して常のよくまとかりて楽なへー

忠孝比玉傳　全六巻

古實今物語　全五冊

坂東忠義傳　全九冊

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2

ガラス使用

浮牡丹全傳　全四巻
山東京傳著
歌川豊國画
浮牡丹香爐の由来山路錦濃のきざはし
危談名にしおふ京傳生妙作画
もまさる元祖豊國の筆ゆゑよき本
流行をよめの製本その頃評判の
草紙をアイノ板木焼失して今は
絶たり

巫山夢　全五冊
十返舎一九作
八文字屋風のあだなる仇一流
の口調おかし本ぐるひ例の滑稽
兼なり

初夢富士見曽我　全三冊
元祖　馬馬作

歌舞伎年代記　全
元祖　馬馬撰集

松井物語　全三冊
赤城山人作

日本水滸傳　全五巻
綾足大人著

八百屋於七　胡蝶夢　全五巻

明月清談　全五巻

穆隻言故郷錦　全五巻

鉢被姫物語　全五巻

出雲物語　全五巻

東雄操物語　全五巻

東雄過糸筋　全五巻

三嶋小女郎　麓の花　全五巻

復仇武藏鐙　全五巻

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

五人振袖　全六巻
白鳥奇縁　全六巻
河内ざんき木綿　圍七嶋　全五巻
薄雲奇譚　全五巻
幸物語　全六巻
白玉草紙　全六巻
新編熊坂物語　全五巻
謡曲春栄物語　全五巻
蟹猿奇談　全五巻
筒井清水　全六巻

在原草紙　全五巻
櫻木草紙　全五巻
鬼嬢傳　全五巻
千賀槻　全六冊
小說江登紫　同
金鱗化粧櫻　同
螢狩宇治紀南　同
繪本美鳥林　同
會稽三浦磐　同
寄木草紙　前後十巻　同

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

譬通箭	全七冊
浜千鳥葉男助夢の浮橋	前後八冊
井筒姫業平物語	全五巻
繪本打出濱	同
繪本纐纈の錦	同
那智の白糸	同
奇談音葉笛	全六冊
繪本伊呂波物語	全五冊
霧書替文章	全五冊
絵馬若松全傳逆櫓松	全六冊

繪本遠山日記	同
雲井物語	全五巻
手引の糸	全六巻
弥生櫻	同
雙三味線	全五冊
繪本檀二葉	八六冊
全傳駿河舞	同
繪本實草紙	同
金谷金五郎	全五冊
玉迺撰擧	同

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2

ガラス使用

蝶の夢花之暮　全六冊

朝顔日記　前五冊　後五冊

駒沢治郎左エ門の傳をもて忠八一異朝の小説翻案絵入ようミ本中の冠とすべきものぞ芝屋司馬の遺稿を浪花の作者ぬ柳浪大人の補ひ綴ま一評判ようゑ絵本なり

室の八嶋　全八巻

怪猫の美人と化しくる物語ゐて東の作者の及ざる妙作なり

浪花俠夫傳　全六冊

男伊達のおとこ気ありろく綴ま

あって新奇珍説いと多一

盆石皿山の記　全五巻

紅皿や皿のことを綴あつまものろく作らまさう曲亭主人作

越路章　前十二巻　後

嵐山花月奇談　前十冊　後

優態言安達原　全六冊

峯乃ふぐま　全六巻

北野の霊験　二葉梅　全六冊

孝子嫩物語　全五巻

石堂丸刈萱物語　全五冊

蜻蛉の巻　全六巻

若葉栄　全六冊

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

愛護の若　全五巻
嶋川大神物語　同
繪本口之碑　全四巻
我儘草紙　全五冊
玉照物語　同
堪談堤の菴　同
阿波の鳴戸　同
和漢の染分　同
繪本浪花男　同
繪本根笹雪　全六冊

檀風物語　全五巻
復仇尼城錦　同
三山草紙　全五巻
西海浪間月　同
鳥邊山もゝべの系　同
竹乃伏見　全六冊
大和物語　同
復讐千丈松　同
忠臣山賤傳　全六冊
琴松譚　同

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

文化新板 宗像暦 全七冊
浄瑠理姫物語 同
芦茅草紙 全八冊
庚申談 全五冊
観音守護宝剣 同
鏡山烈女功 同
旭立帯 同
復讐親子塚 全六冊
松蔭草紙 全五巻
以呂波草紙 同

繪本松栄花 全六巻
同 夜船譚 同
同 茨の露 同
再開高堂梅 同
二枚繪草紙 同
淀屋形金鶏新話 前後十巻
女熊阪横枕草紙 全五冊
雨夜傘 全十巻
都鄙物語 全五冊
繪本賢女鑑 同

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

小野八十島蔭	全十冊	
繪本物草太郎	同	
道成寺鐘ノ記	同	
全傳籠月草	全六巻	
同 石金譚	同	
同 奇縁傳	同	
世継草紙	前後十巻	
長堂門月桂新話	前後十二冊	
四谷怪談	全五冊	
梅菊新話	全六冊	

發功譚	全六冊	
名月夜話	同	
春夏秋冬四季物語	前後十冊	
怪異ノ猫奇談 太郎	全五巻	
復讐一見浦	全十冊	
同 廿傳	全十巻	
本朝悪狐傳	全十冊	
梅川忠兵衛 赤縄奇縁	全六冊	
女水滸傳	同	
二個ノ駭肉 指言笛摺傳	全五冊	

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2

ガラス使用

野路の玉川　全九冊

志うしのかち染　全五冊

双蝶記　全十巻
山東京傳著

木の草紙の山東翁ありし本の作
かさめかね古今英類の妙をつくし
画の元祖豊國の筆ゆゑ彫刻も
名ありふ製本あくぶりのよし

白狐傳　玉山画作　全十冊
一名あをう物語

近頃目もさめる名画作あそ東
あやまり紙もあつぶる草紙なり

山桝太夫　全五巻
後今調錄　谷峨作　全六巻

月氷奇縁　全五冊
馬琴作

三七そうのゆめ
會南柯夢　全六巻
曲亭馬琴作
葛飾北斎画

筒井順照楠を切そめとして
木精の怪あり半七三勝の奇縁と
説古今人情の意をつくし哀
且おかしろき物語なり

南柯後記　同作　同画　全八巻
南柯の夢の継作ゆゑ前編ゆ
もおもしろき奇談とりめべし

繪本料草紙　全五冊
本丁庵三馬著

ふしぎ奇談をあつめてつづりみもの
あろう

常夏草紙　全六冊
馬琴作
お夏清十郎のものがたり

文学上人　橋供養　小枝繁作　全五冊
行状記
あるの盛遠が発心の記あり

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

松浦秋七種　全六冊　馬琴作
清史
お深久松の物がたり
刀筆青砥石文　全八冊　馬琴作
摸凌案のあらましをもつて一種
の奇談をかたり
浅間嶽面影草紙　全三冊　柳亭種彦作
後編艶著譚　全五冊
種彦先生の新著奇作をかたり
阿古義物語　全五巻　三馬著
同　後編　全六巻　春水著
飛弁慶異傳　全五巻　英泉画
馮永春水門人　柳魚作
こゝに春水の種もあらはるゝ

山東京傳作　全四冊
梅花氷烈
後編梅花春水　馬永春水作　全四冊
前編發市の後數十年後編を継
て全傳とかや実に氷烈春水の如く
鮮和げう小梅が我の眞を現さ
看官これを由兵衛の物語とみよ

隅田川梅柳新書　亭馬琴作　全六冊
梅若松若の事跡を種とすれども
名にしおう作者の新書をそ岸の柳は
梅が香をそこゝろ筆の綾錦文章
清きは隅田川の景色もさゆる物語

敵討裏見葛葉　全五冊　曲亭主人作
曲亭主人作
三國一夜物語　全五冊
富士と浅間の煙のあらそひも一夜乃
中に板木の焼失今此敗世に絶ふ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

近世怪談　霜夜星　柳亭主人作　全五冊

世の人々の言傳ふ四谷怪談の繪入ものて芝居おするも山本の著述ありぞおこりもあり

勸善常世物語　全五冊　曲亭主人作

最明寺殿雪の段の旨ゐもあり

安積沼　全五冊　山東京傳作

小幡小平次の怪談あり

雲絶間雨夜月　全六冊　曲亭馬琴作

鳴神法師の物語ありても孝子傳をかえてあり

安方忠義傳　全六卷　山東京傳著

將門の息女滝夜叉姫が妖術を依て男士を招き父のころざしを継んとするいさましき物がたりあり

うぶんげ物語　全六冊　山東京傳作

稚枝鳩　全五冊　前後十卷　曲亭馬琴作

右のあらましハ同ト雖も書ゐ相同ト云まで也さんざふ名人の作るまじなくべうむさきの續兵ありてなりろ〜

鷺之談　全五冊　山東京傳作

四天王　前後十卷　曲亭主人作

蟬丸　前後十卷　曲亭主人作

半月夜話　白頭子柳黛作

傳記

右の書紙へ作ものゆへ前後相合て看に佛ぐるろ〜

旬殿實々記　前後十卷　曲亭主人作

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

まつらさよひめせんこく　前後全本
松浦佐用姫石魂録　十二冊
曲亭主人作

せがわうまおとめかぶき
瀬川采女才女歌舞伎　傳奇翻案
考てありろさもゆうろ多ゝ一

美濃の濃そめおりもやう
古衣八大奇談　全七冊
馬琴作

ろくじうはち才二の名をもちひてわくかう
説ぐゝ物ゝろくそ〻ゆゑ森藤道
三の傳をむろ一古今無類の奇
談ろり

さゝら姫　全五冊
山東京傳作

おまへ婦子の耳にもれぬる清玄の
奇談ゆて一部の趣向古今あくぶ
あの名妙作世ゝ細入ろこ本流行
をゆる山物語ご第一とかぎゝ一ろり

忠臣水滸傳　前後卷
山東菴著

忠臣藏ご水滸傳のありむきおび
ゝそ其文章めづろふ一家のほか
著リよろおのがごとうそんろ

假名手本後日文章　全五卷
元祖　一川雷馬作
同　北尚老人画

忠臣藏の後日あく古今の妙作殊
ゝ一流の筆意あり

忠孝潮來武志　全五冊
右同断　作画

いことぶゝて三唱歌のもゞき忠臣
孝子の物語馬馬老人一代の作と
ゆゑ一

綴手習昔ゝ八個　全五卷
柳亭種彦作
柳川重信画

おろまこおもろ一家の風ぜりのく
優ろまろ新艾向山東翁ふる曲
亭大人ゆゑ一ろ珍書なり

皿皿郷談　全六冊
馬琴作

頼豪阿闍梨怪鼠傳　前後
著作堂馬琴作
葛飾北齋翁画

三井寺の阿闍梨頼豪が鼠に奇談より木曽義仲都督の因縁清水の冠者義高甲冑の術を三井の奇談猫間新太郎の後讐言の辛苦烈女唐糸の忠臣ならんど古今に秀ーーものがたり

夢想兵衛胡蝶物語　前後
十巻

生涯その筆を絶ざる作者の博識あさく見えて世界の嗚呼理屈にかゝはらず自然とおもしろさすがは文章さへ千度よみてもあかぬ所のよくーーことわざ

ゲに和漢ともかゝるぐさ
曲亭主人作

青砥稿花紅彩画　初編
滕綱摸淺緑　五巻
同　二編　全五冊

青砥左衛門最明寺の眼鏡にて評定衆の一位となり仁政と雖ー非ー明徳慈善をすゝむる物語ーり

稲妻表紙　全六巻
稲妻表紙山東京傳作

稲妻の光にまぎらはす不破の関その句をもじり思ひよる不破と名古屋の物ぐるひ美中新奇妙妻の取合せよき計向きこゝが実にやさしきまでくさ紙にこと

本朝粋菩提　前後
十巻

あの書は稲妻の後編にて名古屋小山三の後讐に一休大禅師の奇ー秘ーよりそ天下老和尚の活法佛

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

智力の道化諸書ろ趣ころ
ばかり　山東庵主人作

濡燕柵傘雨談　前後十巻
曲亭主人校合
墨川亭雪麿作
柳川重信画

傘にて女そろえ濡燕とふ句にようてタ題さつけらるゝおり色彼京傳子の稲妻とをつゞてこんさが女中衆の名古屋ざきのねと燕子ぐらもめてこゝろせん山手枝の愛宕ろ八山東の山ようも墨川の川ふ新らもく洗濯せゝそ色ろゝんろ

曠精奇談　全五冊

坂東寝刻ざら一　全五冊
奇聞

濡衣草紙　苔薬亭著

こゝろ珍説ろ

背語質屋庫　曲亭馬琴作
勝川春亭画
全本五巻

絵入物語八剛の臓作のおゝやぶ事跡と吉野の皇居のこと一吉野の驚六田の里ふ宝屋敷とふの在一由ろ段語ころ其家元来好古の癖あり好事のあまて質ふもて金ぐ代ろ活業と奇り或夜主ふ土蔵の中の物音を竊つそ入ころふ是ぐあや考ろ思ふ末のび足一て登ろもく大和ひの元の段階子き一ふ後二階ふ昇一トと息もとゝして伺ふ看ろ一種一の道具質の替一ろ精見ゝ又ろ名ころ刀の上代とをかろ其中ゝ博学ゝ元先生ありこれろ延喜の筆ろをあ一ろ見鑑の精魂ろりこと一ふ判者ふら一らくもの夜まひのあろ一の刀のうへ白と評注ろ役と九ころ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

曲亭翁の滑稽さそゝるまでもの
多くのむつとする異物を泥甚べ
いと数くの品ゝ〳〵見ゝくの古物に三
国を経めぐりて果ハ那須野に終りし
とふ人玉藻前の狐の皮衣まこと漢
末の軍師ゟ孔明の陣太鼓紀の名
将が錦のふくろ銀張の前まで大
磯の虎が法の品ゝ源家の重宝支那
九石堂先生の真蹟野盤ゟの掛軸等ゝ其
名ゟよく説出せる古今未発の遺
理をほくゝ古書のあやまり俚俗
のまどひ分明らかにせる皆悉
うゞ一度この巻を読くくめバ一
理ひとゝ方寸を発明ならの教
えをうるべしそも物の本せ
ものゝてよむとも用捨のこゝろ少
なゝゝもあらゞゝく書を信ずべ
ようまぬ事さのみまめ〳〵しき書を
師とおのゝ虎ゟ文学の才子
ともなるべしといへ

前編五冊
後編五冊

平家世をうゝ二十年皇統を
蔑ろ一下を苦しめ非道の行ひ
多くゝ公家武家ともに
と憎しあまりと平族のこゝろ
わりゝと思ふ者もゝゝ中にも新大
納言成親ゝの恩ひ玉に組し平家
と傾けんとの企ゝ
その大将の列ゝて八汁勝ちの後
行俊寛ゝ度量武家の人ゝやま
ふ如意ゝ嶽の山中鹿ゝ谷の山荘
に一味のゝりゝゝ会を此ゝ
年若九ゝ平家の容体をうゝと
都ゟ登りゝ如意ゝ嶽の山中に忠ゝ
折ゝゟ平の清盛ゝ如意山の衆徒ゟ
るゝとゝ多くの同類ゝりぐれ御
所車ゝ押ゝる折ゝゟ年若九ゝ山の
ようゝと見下ゝゟ目覚ゝき

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

平氏の行状を清盛入道のあやび歩行ひ院の徒事に称すさまをとゝいふて
こゝろして見る所へ義朝の旧臣鎌田
太郎正親といふの牛若の量をはかりて力を合せ大磐石を山の上より
投下して清盛の車をうち潰さんとこゝろ清盛いその車にゆるずして
必死を退き正親ハ打死しうちもらすとも牛若の大敵を知ゆゑ俊寛の
下部が途中にて下して置る長持の中へかくまひてそこもとへ俊寛ハ対面の
奇談その文章のこゝろかきこと古今の作者こゝろをくだきて
書り是ハ牛若が時勢を論ひ俊寛
とらさるの平家をうらみこゝろをらむる事を
俊寛夫婦牛若娘の智にあきれ感よて
えろまいらせ書のうちむだ事ハ略して
かゝむきのぐのいと多しそれ
俊寛が嶋の段ハ誠ハ奇代の趣向ゆゑ
看官ハさぞも曲亭翁の機関と豪
することわらん後ハ牛若が再度の都
のぼり白川の其海と戦ひ鬼一法眼に
会みまふる怪奇の忠清虎の巻の秘
書をぬく鬼一ハ此の恩を忘けるも源家
の栄曲直瀬玄朔ハ義経ともいふ
明英智のその風情をうかゝひ作り物
ぐるといやしくもかゝれそ馬琴翁
の著作にあらざるゆゑなれバ
剔てこれらの嶋ハぐる冗長美詞
とゝいふまでもなくこれを第一の佳作
らざる小説八犬伝の長編をのぞ
の俊寛嶋物語ハよく終へたる中
最第一番の著編とのみ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

莊蝶翁再版外記　全五巻

曲亭馬琴大人作

此書は前小説行々子夢想兵衛胡蝶物語の結編にして古今未曾有の妙編奇説前版のありしを見ん事を百増倍の夢想兵衛の筆ありていよいよ珍しき新趣向を著はしその風俗教訓を博識作明の普く世界の人情小通ト和漢古今の学者といえども説ざる珍奇に滑稽笑を自然と催ふし古事を引て今様の潤沢ふる俊才文雅と小再びわらふる荘諧翁と曲亭翁の筆を採る著作の精妙さらに賞翫する競べものい皆ちらく是ふるをまりいくるる丹誠の作といふともこの右ゆ出ずー生ふふ深理醒俗の一大奇書ろべりよそ

好文士傳　初輯　五冊

烏水春水作
渓齋英泉画

第二輯　全五巻

第三輯　全五巻

第四輯　全五巻

第五輯　全五巻

後北花園帝の永享の頃南朝の古事に起原梅壺の好文人吉野殿の前後論ト梅山法師歌国をめぐりて梅姓の五賢男士の奇功ともり後ふ道淮ふ吉くまで招うめ河肥の城ふ集るの奇談関東の古跡をうらく さらね又菅神の実記その神徳利益をまー多く古義増の遺闕をまーてなお持資君父武の徳沢天下にかまふ太勇の古今美談ともまり

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

中本
三巻
曲亭馬琴作

鎮西八郎為朝外傳　弓張月　馬琴作　北齋画

前編　六巻
後編　同
續編　同
拾遺　同
殘編　同

全本三十巻

六条判官為義の八男冠者為朝父の勘気を蒙りて九州へ下り菊池原田の人々を屈伏あく鎮西八郎と称する事尽くあらず併その前後の記事を用ひて軍書を用ひらまじく無念の敗軍に猶大勝をなす新院の御時方にして

六六 水滸太平記 岳亭作 英泉画

初編 五巻

二編 同

三編 同

太平記の中より百八人の豪傑を種として三十六人の勇士を出し水滸傳のもじりもて太平記にうつしたる丹誠の作といふべし

後傑神柏水滸傳 十五冊未 右同作

あるも盗賊の名をかりて水滸傳の風をうつしたるものゆゑ前ロ作

神灵 新田功臣録 前後十巻 小枝繁老人作 葛飾北齋画圖

新田功臣録拾遺 全五冊 小枝繁老人稿 狂訓亭春水著

此書は新田義貞公の公達徳寿丸の生まれより南朝の天子に忠義の心ふかく南帝一統の世になさんと計ひ味方をからの信義ホれを補佐まいらする功臣ども或は真女前婦の百切手碁軍師其中の才智歌を敗るの計略且左中将義貞朝臣の老臣篠塚伊賀の入道石原が再身強勇を頭一義ホ佐ゐの美談万里小路房朝臣陰道の後神仙となり紫花真人となりの神通義ホの忠義ホ難ホ未然を察ひそその一薫を一旦仙境へ再度世にあらはし足利勢を切ゐぶけ南帝を快心さ〻そまつの奇軍南朝追悼の物がたりなり

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

相馬將門　總稼替語　瀬川如皐作　英泉画
狂訓亭校合
初編五巻　二編五巻
三編五巻

○初編より後の狂訓亭の門人
多し（駒人柳亭が継作あり
将門の幼年より悪心の（ママ）より其母
并に祈り祭を命じて捨て将門を世に
出さんとする部撰より其臣となる
勇士の傳すべく發揮の赴向
奇代ものなり（ママ）

木曽義仲　勇臣録　渓齋英泉画
瀬川如皐著
為永亭西校合

いまの内府重盛の二枚櫻町中納言の
一條ありそれより後の故事世常乃先
生義賢大倉谷の最期悴源義平
の幸吉伯父討の意味深長なり

駒王丸の出生實盛ふそれ
めぐりあふの義心其後木曽
の地に成長一今井通り根井巴女
とともの忠烈勇士の幼立伊勢參宮
の乙女に分妄力半ら平家の動靜
と伺ひ旅中の患苦次第に英勇豪
傑をめつめ竟に北國に旗を上るまで
後を謀て小事も大謀とかいの
奇談ひと多く爰にその大畧をも
尽しがたし

初編　五巻
二編　同
三編　同
四編　同
五編　近刻

伊勢新九郎大志傳　近刻　全十五冊
小原北条宗慶が京都を浪人の諸
國武者修行の奇談ども　為水作

開巻驚奇 俠客傳 馬琴作 英泉画

初集 五巻
二集 五巻
三集 五巻
四集 五巻

この書は南朝の忠臣新田楠の一族なり今この後裔と称して足利の非義を恨み南帝補佐のこころざしをめざし甚だ難辛苦するの物語すこぶる氏の一奇女姑摩姫幼年にして古今ともに稀なる才智勇烈男子にも優れ業九六雛の仇討すべて巻中の奇談未曾有の新工夫多くありて実に目巻て驚奇といふ外題ふさわしからず作者の自讃といふべし古よりの史よむ人の遺憾とする南朝忠臣の外傳まことに快き傳記なり

近世説美少年録 馬琴編

初編 五冊
二編 同
三編 同
四編 同

この書は周防の大内家豊臣氏に焼亡ありて後尚実信勇剛頼十郎のお夏にまどひその其中念世に悪顕てわやく記少年をするすこの物語の風をかへ犬俠客のありさまことに大に異なり美悪成つゝ後く美少年の所為にこれまた小書につゞく賀福内果のこゝ里て尽さゝそ悦ぶべきわり趣もむべく涙を催しまた快く栄光を視せ却ひ、悲哀美醜の婦人いづれて且婦に旦貞ありつゝも春情の動ずるおそき事まゝ正然ずして着信ずを改ものなどの段も備り誠に古今の奇談也

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

大内
興隆十杉傳　為永春水著

初集　五巻
二集　同
三集　同
四集　同
五集　同

第六集　上帙　四巻
　　下帙　四巻

志をそ洞運立身するの美談なり
日吉丸第五編より八作者前々の
趣向小恥く丹誠の著作制本
ものも精工を盡し佳紙上梱の
新製なり

双玉傳　全十五冊

宮田南北著
歌川國直画

尼子九牛　七國士傳　初集五冊　為永春水作　松亭金水作

同　第二編　全五冊　松亭金水作　柳川重信画

雲州富田の城主天子氏の由来を始め尼子一族改るの縁故を発揚と迫細川政元の僕但によりて諸侯の會盟にあり九年の命を受け三術によりて中の字を号とし活勇士集會して義久を補佐し中國にその名を奉ほの美談つゞき出板延引弟五編全部二十五巻卅満尾と云

南総里見八犬傳　初輯　五巻　曲亭馬琴編次　柳川重信画圖

室町安房上総の國主と聞えし里見氏の清和源氏の嫡流八幡太郎義家朝臣の十一世里見治部少輔義実の嫡男義実ありて安房の国主の元祖となる此書のはじめ室町将軍義教公と鎌倉の持氏朝臣と確執ありて結花園天皇の永享十一年二月十日持氏父子ともに敗亡し国家に切腹ありし後持氏の二男三男春王安王の公達を結城の氏朝すえひろにて義勇の人々かたらひ集め里見小栗の豪像ところありし結城の城をもちかこそ永享十一年の春より嘉吉元年四月まで籠城三年にもなび糧も欠乏ありし城兵つゐに討死せんとせし孫の為に義実の伏城を落ち人

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

もあまくだる曲亭の如文第一の巻より四の巻の七冊まで、八日数八十余ケ日のほどをもて第八回より八十六年後の物語を説き義実の臣延寿太郎といふの伏姫の跡をたづね富山へいる路谷川をわたりて金槌大神孝徳といふの者八房の犬をころし孝伏姫君を救ひまゐらせんと飛道具をもちて富山に入り登るを以て第五の巻の終とす初編ゆゑにざつとしるしもの里見八犬士の名をさま記す外題を知らしむ

犬山道節忠有　一の松
犬塚信乃戌孝　同　志之
犬坂毛野胤智　同　毛野
犬川荘助義任　同　額蔵
犬村大角礼儀　同　與四郎
犬飼現八信道　同　玄吉
犬田小文吾悌順　同　小文吾
犬江親兵衛仁　同　太平

もあり其中に里見文太郎義実ぬいが幼年基の遺訓ゐあるにより相謨の国三浦ある大取の入江小落処てそれより安房にはこらんといふ龍の口大夫ら視て甚当氏元ゐ甚だ評して虎世るぐする才智小舟に乗て安房の国へ渡るの段端まこと安房の国ゆへ麻呂安西東條とりふ二家の大名あしこのより東條の亦て継一平君滝田の城主神余光影といふ大身その臣下山下氏の為に亡び麻呂安西山下とすでゐ里八伐の起らんとする虚ゐ乗じて里見圭秋竟ゐ三家を打亡ぼー頓て安房四郡をもぐめふの美談をとりまとめしものとも其ゆへにようて里見の旺君房とりふ犬ゐ伴ふて同国富山ゐふの奇事珍の行者の神徳まさ玉梓といふ美人の怨念ゐてすでとの法術の筆ゐ真似

里見八犬傳　二輯　五卷

曲亭主人著
柳川重信画

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

両公達の内最期の親子三合さかづきとりかはして共に往生をとげ給ふ事

とりの手の法場にて京軍二百余人をうち自害父匠作が討死をせしもその子番作が年十七君の首をうばひ立のき本番の夜長嶽といふ所にて落ち死す扨華庵といふ山寺に宿り賊僧となりあそびつけの妻子を求むるその名のりもの奇縁これとの手束ねて討死まうらむ君の為に結城の龍城あるじ井の丹蔵直秀といふ人の娘にていかの大塚信乃が母おやうり手束子供まうけんとて薄の川うら舟夫へ日銭にて長禄元年より同おく三年の九月すゑ一日もをさ〳〵老夜中に巻詰の路の小犬を伐けて伏姫の神霊をあがめこれかうらの七て寛正元年七月成の日小男立生の因縁八犬士の一人大塚信乃といふ

はじめて二編目第二の巻二十

七丁目にいたりてやうやく頭りさて番作手束の夫婦八子を月の当に男女女子のごとくたのらへ名をも信乃といふづけてそもそもおぐら番作手束が始めて信濃の国夜長嶽の招華庵小出會する

その子を忘れてとらびき信濃の受領ゆかりある後を尋くりざといふりて大塚氏と大塚とせいい漆人とふり三年の浪人中世故もあの番作のありさまを大塚の古人あの番作のありさまを大塚の古人といふの養六といふのでいらばらう幸と文匠作の結城龍城の功にろく扶氏の末子永寿王の再ふ世にやあひ成氏公より恩賞ありそ長となり梅の昌をとる番作湯治をして金瘡をあらすとし又諸呼にあひ居る間のあやまちの番作をうらみ八犬士の墓六を憎む

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

さまでもわれ長ずれば家言を安んじて自ら作らざるを恥ぢ甚だ過ぎ去りぬるを悔ゆるの歎きをなさしめんがために作り始めて思ひ立ちぬと書き残しぬ

子の為に遺言をしたゝめ置きぬ者宜なるかな

且栄枯盛衰のうつり行くありさまは武蔵の国の名家豊島左京の一族東馬平左衛門の家臣の娘由緒正しきも衰微にして墓守の養子となり漂泊といふの美譽れ七貞実なる養父母めぐみ少しも似ざるめ世にうる智恵のありの様男の信乃を漂泊の果て村雨丸の刀をもて入縁倉敷へまねきせをするのくだりと其の外種々の物がたり畢竟下もそうに番作自害七死信乃が但母のなげ世にかくれ此の草庵の家に頓蔵といふ者あり共に入らんと世豊の国北条の荘宮大川衛士則任といふ者の一子多名荘之助とかや長禄三年十二月朔日に生れしとそ二編め五の巻三冊終る

去の巻のはじめ丗八信乃十二才のそ父ぢうろれーより但母を始めるいまる物がたり額蔵心を尽して信乃の為に亀井草六が好を告あとゝ番作の三十五日の法事の後信乃が暮六の父ぢうろれーより濱路とりかはすの一段且すべて信乃の母手束ゞ拾ひ貰へる母と西郎大の死骸を根に埋めし房の梅の実に仁義礼智忠信孝悌の文字わ一八ー奇説ぞかうる事なくて文明九年四月十三日臣田楳千東の人ゞ豊嶋煉馬の由断をうかゞひ江古田池袋にうち立ち濱路ハ卓く実の親兄弟の練馬なるを悲ひ歎く心より信乃をもろくふ心を

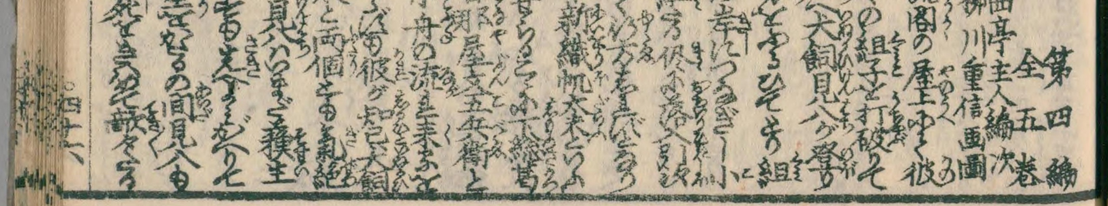
左兵次郎が村雨の太刀を三品弓代廿七
国拝に無法の口ぎ仕腹立其ゆるる
濱路が一念無次郎をすけこそ
これ為め殺されんとするその夜まで口
引き乱書官宣を捏ぞ秋歎場初
編より九編かへつの作者の大切の巻
みいらく知人ぬ幸せも既ぬ濱路が
信乃を恋ふ苦痛にあること毎次郎が
あの殺しあんとする其所が寂莫道
人らすの少定の穴ようわく生五毎二
郎を汚濱路と兵衛の為の欲を
村雨の太刀をあづる事を濱路が妻
うの子大山道節道芝を煉馬の黨
天下の豪傑犬士一人の五百ろの始
め名古屋城の山ぎ額蔵の壮助道節
と戦のの事ニつの奇遇又額蔵
義兵方ぬ五ヶ所の村ぬ土宮六亀笹養
ぞを害ぐみむの主の仇を討ぬむひ
カ人ぬ疑ぐ事を無実の罪ぬを
さま牢屋につぐる怨情ぞ大塚

告んとすの情合あつひ同じ村雨
糠助ら人百姓かして信乃とすぐる
厚く其の死にのぞそ病ひの甚
痛を甚へつぐ身の素生ぐろう人の
実子書吉とぬの成氏公の歩卒役
を勤むる人ぬそしぬ母ぞろの女
古とぬ小児ぬ長禄三年十月管領房
の國洲崎に出生せう実の父も養親
もさて置ぞとぬ名ぬ氏も系圖も立
ぬ孤ぐ犬阪神夫の感導ぬ
後に犬飼見八と名乞八大士の一豪
傑ぬりさ濱路と妻にせとぬ車代
戴古宮八ぐようと生又ぞ左兵次郎と
ぬの意欠ぬかさまて讐事ぞ引
神宮川迄信乃が秘蔵する村雨の
刀ぞ奪ふ悪事信乃ぬいとせぐび
まて村雨ぬ成氏ぞ献ずつぐ古我へ
ぬむ其節ぞ戴古宮六濱路と
儀ぞ夫婦とする夜毎次郎ぬ通ずぬ濱路
ぞ退れぬう本舞台場山ぬて

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

里見八犬傳　第四編　全五巻

曲亭主人編次
柳川重信画圖



信乃い村雨の太刀をうばひとらるゝ
みゝづゝ京戒の街所おゐる和尓成氏
公ゝそすゝり処その太刀の偽ものるゐ
よりて美ひとをかもり献國のまハり者
あゝんと既ゐ命のもゝ及ばざる難
儀とるりやそもも耳届られねバ
犬飼るさんもゆく多くの捕手を
おちし十方へ追散す一八當手の刀量
早業実ゐも故人番作ゐ若君をや
ハんと擔井の金蓮寺に勇をふるハ
その俤せそゐわゝ八女装で育一信
乃の柔和をこれうさすがゐ矢士中の
衣筆にあるゐ出る禍もわねと恩
ふる曲亭翁の自然の妙作後看
官の眼にさまる錦繪ゐ摺いづ
祭礼の行燈額面にまで畫き写し
古戦の街所の芳流閣にて信乃
が血戦さまざまの擧動の実ゐ大観
八信の道ゐ信乃の捕ゐゐ閣上へ登ってそ
両個の組打が第三編の大詰ゐり

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

力二尺八寸二分の士太石の陣番
の兵士を斬さえ大士をすゝひ退ろ
するの体なれば妙義山の麓日
鏡をつく荘助大山道節の振舞
視るの奇遇の糸口説ひそま
よう道即ち村雨の太刀と書んと偽
り定正をねらひ復仇の為に巨
田助友の遠謀によつく道節軍
小弓巻とすそ石ろさ打つ四大士
のの行合にようく大山へのつま四士
が為てくたるの大戦大士相合
て相尋ま由文の地蔵堂、道節荘
助首尾そ暗討合上野の国
井樂郡荒牛山の麓村の住音音
との差が大山道節に因縁ある
のののすり其の新しき事節の
二人が貞孝こと力二尺が妻ね
れのすぐ讀る毎に因縁の浅
くぎる奇談古本の小説小倒
めざほ此男戦の利の勢の場

をねる極向荘助道節一度の出
會ひ（ママ）ろ者場人と現在の絵
すると此る作意隊鬼場へ足
判ドいるまゝの奇妙ま事を
むるまゝ大山道節ゞ火頁の林を
士ゝ実取る業ゆくこと其世書地
ぬふくく焼するはさぎる男女
哲鳥合図ねゞ地坑の火炎猶々ど
て着ゝ煙立のあもりくと方より
丈人捕手大山道節荘助大鋼見へ
大甲小文吾犬塚信乃の五士が寄手と
一刀ふるゞ此ゞ勇猛ゝまもけ
ま此ゞさゝるの所陣ゞ大勢再
そ白昼の軍機村と押来る士衆
見へかまの士衆ゝ其の間を
色ゝ高の兵をまやおりん
子の男女老若音音と五の但呉猪
平前名荒雪世即の天が九思ゆる勇
ゝえげそ其ゝ力二尺八の後見の身
甲あげかけて解鎧ゝ斜着ぬ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

里見八犬傳　第六輯　全六冊

曲亭主人編次
柳川重信画
渓齋英泉画

上野の国甘泉郡荒芽山の麓より
五犬士白井の城主と再度合戦より
世四郎音音が必死の働き家に入
うひそ山林草野を焼拂ひ知ら
幼まで大士乱軍に身をかく
し玉ふ子単節が行方を追ひ小文吾
金中ホ野猪をうち殺すの強勇
他を助け猟ひ求めて其名を
あらはすまで色〻船虫とらの毒婦のな
ホ〻火〻せんをまとふ石瀧の婚姻
押入とある月日を画すとホその
大記が悪計を天王の奇特にもそ
まぬまで無事の為ホ去のがれ
難をすくふ奇談無類のひまお
ほくの実〻大坂毛野胤智まで

音音が長カとみさへ五犬士諫め
荒芽山を落さんとする忠利あるに共
五犬の勇士ハあつまりかゝりて敵軍
軍節の美女まで生ずホ豊嶋家
の臣下あつまり武家くさきいさかひ
うせぬ七人男玉一同の契をなす
梅麿村雨ホ一大事この五の
巻をつゞりふいて次編のまれ
なおもざをいつつ程なる見物も
あるべしすゞく初編よりこゝまで
巻毎佳境多くとりわけて山
五編ハ作者の為ホ苦心の場多く
三犬士活場をあつまつて顔揃を
救ひまこと石田りの名ハ難道の砥
沢山ホ定正を討ちこゝろ時の戦
ひそのゆくふえくく四犬士のホ意の
難戦そ五の巻の贅村すゞ番中
軍談のごとき場のこゝろを筆力の妙
ふえくく世話人情を尽されたる実に
曲亭自然の秀作といふべきものこ

智勇兼備の美丈夫多く敵の大酋を打取の美談は文吾毛里ゆ名ぐらゐまで千葉の城を退れ大河の甲羅に乗て両犬を助ひ大鳥見八郎の仮住く犬村を訪ふ途中で悪人下野の国真壁郡網掛旅路の宿より八下野の国真壁郡網掛といふ所まで庚申山の怪談をきそふ

む一犬士に仇せ一怪物ふ矢を射ふせまし且山中で犬村大角の父一角といふ者の亡霊ふ逢奇怪のもとも赤岩軍山の談い古今にめづらしきふくく

殊し今ふ現ふ出る仙境の勝地かくてかの山の主女化神通をもつて一角を殺一怪物一角に化て妻ふ娶ふ

もろ残毒もろ角太郎の妻雛衣ふ

角太郎をこゝろ犬士の由来をかたり犬村

の一條犬村も王政持ひ奇談山巻か

発きふ面白き新趣向の多かりけり

里見八犬傳　第七輯　全七巻

曲亭主人編次
柳川重信画

此巻ハ犬飼現八が下野国安蘇郡返璧の白屋ゆく犬村角太郎礼度と文武の道を論ト居ふところへ継母船虫といふ女角太郎の離別せ一妻雛衣とふたりのを

うま一来りて角太郎の利害を解て宅ふ入ふ計をたくみとる

現八ふこゝを悟て船虫ふ叱く思ひ角太郎のうわべその様ふをさゞ〳〵と一角の方へいろ多くの一弟敏法をこゝろとゝらべく

打倒して勇威をあらく其夜に入くまぎく多くの一人等ゞ害をるさんとするをふ付てふくも

とまぬかれもすー猶飢の未先をそゝ

て角太郎の家にかゝりてまさ

一角船虫八角太郎の方へいふを
親の威光をかりてあさけるるくも
雛衣小自殺をさせ脇内の女子を
生けく茶もるみさんとする非道の
ふるまひ雛衣自殺の血相より恨夏
王の化出て一角をもちかへり終ふ二
犬士徳一角の猫を退治すの奇談
きく毒婦船虫が竜山の逸東太と
いの者をそそのかす縄目を退さざるの婦
計をもて犬飼現八が信勇まさと活
今の傳記ありいかさまなり多美談
多し第一の巻より第三の巻いと
ひて犬村の殿を説にくされ第四の
巻八犬塚信乃が諸国をめぐりく
甲州臣摩郡富野六山とふ所にて
鉄炮ぬあらひ武田の家臣
泡雪奈四郎とふものをすまる
武勇ありと聞国様石の木長木
工作とふもの来り奈四郎と信乃
とをあらそひてあひ信乃を伴ひそ

その家に至るそもく此木工作の
家八信乃ハはゝをあるのとるくぞ
木工作の中ろひ娘濵路とふ
里見家の息女五の君といる
いつくをさるく在せ一とをゝ驚
の為にさらはれて此国の山中に
おとさまとそれより才子作ふ
れるべくふ一ふ一の因縁まて信乃が
ゆるみつけの亡妻濵路の事あ
まそ信乃ハ悲情を告と五の君
の濵路姫の妹をかる奇談まて
木工作の妻宴とふ婦女奈四
郎と密通してあるふ信乃と濵
路をあらそはんとする悪ごとう
木工作をこそ一信乃を罪おもも
なくして武田家へうつえられけり所に
甘利兵衛尉元とふ眼代役ある
山道一郎ハいそぐそして信乃を庫の内
より出一濵路を連一退くそ後へ

里見八犬傳　第八輯　全十巻

曲亭主人編次
柳川重信画

犬田小文吾の越路にて牛合の場并大久保に顕るゝ彼毒婦鰒蛮の賊に所業并に猫俣蟹せんとて小文吾をさし殺さんとして捕られ土地定めの事并に古き衆由堂にいまゝ大川荘助なるべきことこれ殺し越の隠し家にいろ〳〵船中の事并に尺八の頭巾の事并に文吾の逗留中の事并に犬塚信乃の小文吾が逗留中の悪行并に犬江親兵衛の皆殺しされ亦犬塚信乃の一生并に領主の仁義并に毒婦への為め死をなせし老臣の内計并に命をかけてする東使二犬士の送道并に旅中大坂毛野小文吾と大川の手野にて合せの事并に大塚蟇男ふしぎ二犬士の恩を犬村大

誠の素元来りて家内見分の一條并に武田信昌の明君ぶり并に同国石和指月院とぐろ、大悪僧信乃道節が対面并に仁徳ぶり悪の改事并にろ〳〵尽しておりろ〳〵此段公第四のまき説終ふて犬田小文吾が伊豆の船路が難風ありて鳴々に筆をおくこと并に浪花みやげ并に北陸道にくぐり越后の州川村郡小千谷の里に旅寝して同国古志郡二十村が闘牛の神事と見物并に此闘牛越後の国ぞ実に名高き一奇事并に和漢の古事をひき角觝の古実并にろ〳〵尽しまろ〳〵いざさとたれば例のごとろうありのごとく同じく

川十王司原小戦ありとうごぶ人と
聞て今ふたゝびの大変出来ひろき
無失の難賢士のなすいの場を
のがれ住河のぞき大山大塚みなひ
盗賊の本人を捕へ無失の罪の證を
うしなひて穂北の郷士永垣親すと
戦死そのゆく賢士のかもとを
初めとして一味の者ひふ水
旦親子大士の味方とうるの美談
大法師牛尾のうこ穴をたゝひ
浄め一郷の害を除くの奇事湯
島の社頭の才子巻物をうけ仇をすと
五十子城の攻囲をうけ仇をすと
する太鼓すゝこのあたり大坂毛野が
ふのふのて美談多く尓その際に
いろいろ飛虫 司馬浦の刑せらるゝ
悪報毛野と
濱めつぶ仏童話をうらて聞て毛野を
きゝんじ五十子の城をおんとするふ
いろ毛野仇討の場迄巻ごと

里見八犬傳 第九輯 上帙六巻

曲亭主人編次
一世柳川重信画

この巻文明十五年卯正月元日の明がさ
小犬坂毛野信智父の仇竜山逃東太
緑連を打ちとりて武蔵の国妙見川ふる
鉢ヶ森の戦をおこして五十子の城兵
あつまり小田原の使ふれ援重ふる補え
わりをまぬかれ只二人数を切破
つゝ終ふ本意を達そのの血戦
ものとぞ聞えける同情眼前ふ
見ゝぶ如く珠ふ大坂口二人を東西よ
り支合せおのゝ敵の手配り剛
ゆゝしかりふ難戦のありさまを詳ふ
猶ふぞ知ふ二人の現太刀西つゝく
ふの大田川支吾東の路ふ入て道取
名のやゝのつゝ出するさも目ざ
ましき敵討文法筆力自然十方
お散當て段々ふゝりふ八文
墨さゝふ利勇の徳わざこと

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

谷山の伏勢仁田山晋吾を初めとして其の
馬をうばゝんの働らき敢軍の注進を
聞て有合定正五千の城勢ひ
ふせぎ玉ふ忠臣河舟守之これを諫め
後の自害ハ定正謀をさゝず三百
余人を品川小操ハ大勢見ぬ大村大
角大山道節の三大士が穂北の在所へ兵
ひ伏勢とゆりこゝろふせぎそらさんと
大山ハ城を身をきれさんくの敢軍
をそ河舟翁をすゝめて
まこと大塚信乃八十余人の勢投
て五十子の城を焼打て兵取倉庫
をひきさき金銀米粟をなげくく城
下の村民ハ施し徳をわすれ再度
五十子を立去の信義をゞ古今
まれなる美談ぞく且河舟
舞老ハ同大士と古戦場へ
さすれハ大士品川をうばひく舟
路の退口さゞ一言のもとに
古へよう軍記の文段ハ

多くハ似さまざまのまぎ山八犬傳の
ごとく至ては修羅場のありもの
絶てなし江湖の軍談師ハ是非
ようそ古制の助とあるべき定正
が愚かにて忠臣を疑ひ国家を保
ず段ハ更に実録のすけのん
大士穂北の郷士の家柄にて結城に
旅ごもり義実隠居せられて
義成里見の二代とおわびごとの
段ハ過半ハ虚事ながら公の
看官のあふ趣多く長編ゆへ
よくおもひまぎらわしかゞ
をの舞てのせ小事ハ或の
上総の国夷灘郡白山の城主さゝ
菓田椎頭素藤らの者の素生
まさその者の見づ小鬼話をさて
一城の主とゝりし奇談ごとく八百比丘
尼とのゝ事三尼の妙木ハ豚
の悪戯なをけ里見家の姫君妻
あわさんとの一條ハうそかりごと成

里見八犬傳　第九輯　中帙七巻

曲亭翁編次
柳川重信画

この巻の上帙のはじめに言ふ山の麓に大江親兵衛が伏姫の神女を護りて九オの童子とともにオカ稚児の使ふまじきを感伏して里見が家の重寶四郎その妻音音その嫁現八信道もおもむき富山神女の冥助にて同居す殊に力二尺八の簡を二女とのみ生せり一奇談をなすといふ犬江がもとへ使者をたてゝ勇威明神に以て城主をおそひ玉の緒の城主を生捕館山を平定し義成信道を逆賊を免し素藤追放せらるゝ事そのほか八犬士僧小猪の再會そ

のちく里見の若君をうばひ去る事を人質とせんく非道の合戦をもとめ里見義成をたづねあひ神通をあらはし遠く義成を救ふ事ならび義実が伏姫の玉をつゝんでうまれ終長禄二年より二十有余年の後そもくも富山へ入りこの頃安房上総の二州ならびに滝田の領分との伏姫神女の在ます富山をうばひ山ごもりの由断せざるつゐに主従三人山深く入りのふさぎ麻呂女の西の残党あまの小起こりて既に義實朝臣あやうく所へよつの少年犬江新平一人あらはれ悪漢どもを叱りこらしめて突立ありさま憤然たるいさぎよきこと童ながらも一画絵のちくこの六冊めのおもむきなり

里見八犬傳　第九輯　下帙上五冊

曲亭主人　編次
柳川重信　画

大江親兵衛、河鯉佐太郎と戦を止めて両人の名号を再び茶店おいうそあれ互に身の上をかたるこゝは茶店の姥が面影、竹服の刀自の良に似るうなゐ娘ハ河鯉氏の母に命を救れる狐あそこの後に乳母と化して佐太郎を中そ奇談政木狐といふ名もう神通力を安房のことをもあく大江ゐをやつのがう頓て政木の老狐ハ不忍の池の金龍と化し昇天そもその神変両国河原に大江河鯉貴公を想て犬士に関ある次團太ゐ名もあゐ奇遇里人の舌妨をさうもことして味方をゐのようあゐ河鯉氏名を改めて政木大全とるの後半里見安泰の名臣といそる後功そうび蜑崎十郎に會して

て情を通し淫楽をつくしその後妙情の奇術濱路姫をうばひ去るその様は玉梓を連れ一大江を連さの主君義明を夜打で里見勢を追出し再び城主となり妙椿とりゐ栞こを拵め里見勢こゝを責て敗軍う　その中や妙椿がさゝくの所為をえ濱路姫を盗出し一途古へて伏姫の神玉にそりかゝれ且胆を吸られそう邪術むそう義成後悔して大江をめ父さんとする條朝兵衛が武蔵の国ふいくう上野の原の茶店ゐて河鯉佐太郎ゐ忠義あのうう大坂毛野が鈴の音の仇討そのあ大士の導かさか河鯉氏の無夫の罪をあきらかに弘化そ館の刀自とう河鯉を救ふの妙術大江河鯉をうさんとよかりふ坂ゐ途中ふ五の私利ふゐふいろくこの九輯中帙上春の尾こゝろうそ巻毎新奇妙談かゝ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

上総の渡海一再度館山の城を攻勇にうそぶきまくし素藤を生捕て妙椿狸を亡ぼしめるも此妙椿とりわけ妖艸僧ハそのもと八房の犬の名をあさえ育てる狸なりことりつとも犬ハ菩提をいのる怨念をもちし狸ハ玉梓の餘怨もまだ消ず里見に崇ゐ因果一初編のもくろみ過ようこそおいらくさぞ誠にうきの妙作といのさえ義成の仁政館山の民を賑ハし素藤を誅して功臣をらの父江ハ大功を他人のものゝして結城に籠むくかの地におりそハ、大和尚七犬士とりわ里見季基の墓へをもでゆ古戦忠死の霊をまろるその法場ゆ火ひの一大事をとり来ゐて七犬士の危難にあてのき吉のむじと思ゐ出せ結城法難さきさゝゆ修羅の備えゲ春尾ゆり

里見八犬傳　第九輯　下帙中五冊

曲亭主人編次
柳川重信画

此巻ハ義烈院殿里見季基の追善結城の古戦場へ大庵の法事を祝ゐに逸正寺の住持徳用との悪僧同気相ゆるゆゐ結城の家臣長城枕之助悴利堅名衆司経枝根生野飛雄太素頼るゞくの者をかさらひまゝ徳用の弟子ゐる堅削るんど九そ三百五十四人三手ゆをつゐて法場をせめんにこのゆんゝ八犬士ハ敵をそりて二ケ所ゆ道節大角毛野ハ大庵ゆ残り荘助小文吾現ハハ林の中に伏し信乃の蜑崎氏とハ大法師で守護して立退六犬士ハ敵を生捕て退口ようとゐるも信乃ハ途中ゆ大敵とゐでわひ左右川の辺ゆて徳用とたゝゆ最中へ大法師へ蜑崎氏ハ強勇の悴利ゲ大事にゐこ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

ゝれ既ゝ君ふきその呼ゝ大江親兵衛仁ゞ来かゝそ忽ち大敵をきりやぶるされどもとの時仁が同ゝ〳〵ゝる政永高嗣石亀屋次園太郎三の三人を伏勢の鉄炮やてしとみられうさて八犬士いこゝそめて相揃ひ、犬と蜑哥氏とを介抱して六道山能化院教主ゝとのふ荒寺に休息ゝ仕城の追をまぬ呼ゝ城内の侯者小山美の次郎朝重といふものきゝて諸犬士に無礼をこゞ公て無事をそろこゝふそのむしし嘉吉元年七月廿四日ゝ地蔵尊を建寺して里見本ゞ基の菩提吊らひゝる浄西坊俗性十八ゝといふの忠義ゞ字栄西法師の孝心あつゞひ仇臣の災神風を吹そゝて難をまとゞ将軍地蔵の霊如ゐて犬士の難を救度もまゝ〳〵ゝる神通力六道山ハ結城三郎朝光の建立せゝ〳〵ゝそゝめ甚とまもらゝ因縁奇談巻ゞこゝふそろへいとゝ入組

ゝる前後の分解実ゝその場を眼前ゝ着るゞゝいう見せ、俤の妙文ゝゝゝ

海賊の難ありそめ人大変船商人
といえど立さる海竜王俄羅五郎とよく
海賊の頭と水中の難戦蛟雪代
四郎の水練によろくまきらをつぐ
まに照文の陸おおよて海賊の首領
今紀友査勘太こといえるめと大戦
一既ふ必死とるりしさころへ三ぬ
のくふ興郡の城主隣尾判官伊
近の賊と制表する軍兵の加勢ふ
よりく功をたてそをまうう都へのが
よて管領政元へ絡び将軍に金
銀をたてそまうり且金砲妙のこと
天よに奏海一首尾よく安房へ
めくんと守ころふ細川政元
大工さんで許さ長
在一尺堂漢志ま千里独行
盧五関とりよ句にいさんて巻を
をさむくや次編を
よろしものべし

時代物の部

小野小町一代記　全六冊

安倍仲麿輪廻物語　全五冊
おのおの安倍仲麿入唐しての奇談なり

繪本菅原實記　前後十一冊

繪本玉藻談　全五冊
おのおの玉山先生の画作なりそ三国の人物をくくその処を尽されなり

繪本三國妖婦傳　三編揃十五冊
前書に同ぜうられぐる玉藻前のこと
いうていこの物ぐりをのとすべし

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

奇談怪談の部

英草紙　全五冊

繁々夜話　全五冊

秀ト句冊　全五冊

御伽ぞうし　全十冊

これハ奇談怪談の種本ともいふべきものゝ古今の珍説を多くあつめたり

遠山奇談　全八冊

小夜あらし　全五冊

奇怪の実説を編輯したる冊紙わく古今にわたる書といふべし

兎月物語　全五冊

二ト草　全五冊

用草紙　全五冊

右の類ひの物ゝうハ数百部ありてこゝに記しつくさゞるべしゆゑに其中の佳作をゑらんで出せり

著作堂一席話　近刻

曲亭馬琴翁七十余歳の長寿まで五十年来見聞せし奇談珍説より古今未発の高論など筋引くあまめ唯一席の物ゝうとのみいふともと雖くこれでいづまの草紙ぬも似ぬね新し女談義

いざさらバ知れうもの名あらバ著作堂の柏堂わくこ一席話帝を待ちまし

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

北越奇談　全六冊

越後雪譜　前後　全六冊

その書は北越冬春のあいだ雪中の奇観をあつめ居るがうえ又山名所を一視ぶ誠にありふれ珍書なり

山東翁栢樹著

繪入田家茶話　全本五巻

讀本

大藏永常集

そもく山書は忠臣孝子義夫節婦の身の上をあつめて古今の奇談を数百ケ條あつめさうしふうきものがたりふみわかりやすく眼前に俤ありありと見るごとく眠気を催さゞるやうにまた文章とこゝろ〳〵訪ひて考せず讀ませるやうにわかり実に田家の便言小冊なり〳〵聞きたるまゝ筆にとゞめ子どもの為にやさしく分解けば両の具

作まで一通りさらく頭にいれるのみその次ハおりふし見めでたのしみ俳諧すめてそをとりく〳〵と改めるときお仏のうら紙にまで手習するのハかりさえぶんで戯作のめぐりあわざれバ見てたのしむ其中に教訓となるものとなり一殊に近年の実説などの見聞せる事ども平〳〵やさしく平て書さればいつまでの席中の花もちらずくらも聴流ふるとされ信せわる人の車座の茶のこなし座の上坐とるべくおく〳〵年をへてその益多そ賤しからまで一冊ハ好事家の奇代の実録とすべし

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

高僧傳の類

釋尊御一代圖會　北齋老人為一画図

聖徳太子傳圖會　六冊

日蓮御一生記圖會　前後十二巻

上人

右は高祖大士の徳系圖をはじめ御一代の事跡を諸書にひろめて改正一御行状を圖會よわかりやすくしるしこの御艱難を目前の拝もをがごとく古圖をうつし一丹誠を加うるさまが宗祖の御傳世に多しといえどもこれほどくわしきは依て御宗旨の人々我慢の扁屈をいよいよ信心のまことをあらわせ拝覧あるべきものなり

喜多川寶雪画圖

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2

ガラス使用

繪本一休譚　前十二卷後

中將姬一代記　全五冊

熊谷蓮生一代記　全七冊

弘法大師御傳記　全五冊

圓光大師御傳記　全六冊

親鸞聖人繪詞傳　全三冊

日蓮上人御傳記　全五冊

釋迦八相記　全五冊

西行法師一代記　全六冊

北四輩順拜圖繪　全十冊

諸大人隨筆之部

今昔物語　宇治大納言源隆国卿著

宇治拾遺物語

古今著聞集　全二十卷

集義和書　熊沢了海著

集義外書　同　著

駿臺雜話　鳩巣先生著　全五卷

西行撰集抄　全六卷

閑田耕筆　全五卷

閑田次筆　全五卷

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

新著聞集　全六巻

雲根志　木内小繁著　三編揃十五巻

簑笠雨談　馬琴作　全三巻

近世奇跡考　京傳著　全五冊

燕石雑志　馬琴作　全六冊

骨董集　京傳作　前後六巻

三編ゟ五編まで追刻出来

扨京傳先生ハ戯作者中興の元祖ゟ一代の潜述ゟ其中に古書ハ勿論ゟ年来の随筆ゟ好古の風雅ゟ奇妙談ゟ珍らしき古の貨財ゟ其時々の眼前ゟ見ゟ聞ゟ

芳窓漫録　全三冊

開田文草

開田詠草

近世奇人傳　全五巻

續奇人傳　全五巻

爲人抄　全五冊

東遊記　橘南谿著　前後十巻

西遊記　同　著　前後十巻

北窓瑣談　同　作　前後八冊

筆花陣　新井白蛾作　全四巻

猿著聞素　嶋定岡作　全四巻

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

思齋漫録
橘菴漫筆　十前後巻
梅園雑話　二合冊
尚古むさみ　全二冊
伊豆日記
俳家奇人譚　前後六冊
七嶋日記
開窓筆記　全二冊
滓花漫録　全
摛書漫筆　全四巻　高田友清著

松の屋大人の随筆ハその風高く
奇俗多く遠き書ぶりなれども
よくくことをよむ附かなきと一際
かりろくものぼくろ和学の道ふ
いくろの書とりのべし

棟梁集　同著　全二冊
相馬日記　同著　全四冊
富士根元記　同著　全二冊
滓のなか　全二冊
こく近江より東へ旅路せず博学
の阿闍梨が著しろ随筆ゆく
その文ぐさぐさしそのぐさくふ風
調高きかりむき一随筆の
るふそ第一かべし。
梧窓漫筆　前後四巻　太田錦城先生著

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

梧波教諭　前後四巻　同著

むぎこがし　瀬川如皐作　全二冊

花街漫録　全二冊

雑交記　馬琴著　全二冊

狂歌奇人譚　全六冊

廣益俗説辨　全廿五冊

還魂紙料　全二冊　柳亭種彦著

玄同放言　前後六巻　第三編出来　曲亭大人著編

古今名家神社の先生の随筆ゑらみ自然博覧の珍説多く和漢の先哲も解ざる書籍の注釈など丹誠有益の事ども多く一山書城ちくさ〳〵諸君のよく著作堂の号をさとり羽の博文強記をあらべし

近代世事談　全五冊　誹林沽涼著

古の書や東山殿ようこのそ呉服食菜草木器財近代船未の年暦其外書画詩哥連俳遊藝雑伎おいろ〳〵何いろのいろとよくこゝろ〳〵挙こゝろみ初右に書そ猶更に珍重の書かへし

同二編　三編　各五冊〳〵近刻

太平樂皇國性質　全二冊　水谷真金水著

古の書や儒者と佛者の説の異なるをそろそろ説出してそ古今風俗の変化わるく神社仏閣の興亡をみるに

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

誤るといふ説或は忠臣山
鹿素行氏三味線琴の説豪富
貧士を倫る経大婦喧嘩や囲
女あらひの刺墨江戸の方言あ
り拳てうぐいす何ごとにつく
雅俗のみだれ説をつけたる珍書之
もの也そもく書を用ひて教訓と
あるやうも多かるもの也求めて
視るべし

唐軍並諸記録

周武王軍談　全五巻
縮文器解画鈔

殷の紂王位にのぞみ悪行
をなす一婦ありて諫めんとす紂
とのゝ美人を寵愛して忠臣を殺
聖人をあざむきことわりを武王太
公望と云ふ謀つて天下のうれひ紂
王を討ち終に殷の天子六代四百
年余り続六百年余年に亡び聖国を
おさめ周の代となり二百年の基を
ひらく其代り北五代め周の景王
までのことなり

漢楚軍談　前後　全十巻
曲亭馬琴略文

周の代亡びて秦の始皇即位の後
房宮とゝのひ広大の玉殿を建三年

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

人の美なるを日夜媚酒小みだらにて照
人趙高を愛
偶者を穴ホうがち書物を焼すそ
その外種々の悪行ありし上云
ところ小崩ぜ二世皇帝位を郎て
天下大に乱また国の子孫おろく小
猶をあげ国を起さんとす中ホも劉
邦といふ人芒碭山の白蛇ごとき衆
人を従ひ張良といふ軍法の奇師
と味おをそしよう項羽と天下を争
そし終ホ項羽を亡して漢家四百
余年の基をひらくこまた高祖皇
帝といふ漢楚二十余年のあの争
戦あそいとるおくきそなあを馬琴
子の筆意ホて略文のごとく
くその末ちどうしつへさる古今
奇代の絵入の小伝袋へゆて価
もホをく諸国のこう家づとホ
まことふようしまぐ
品といあべし

繪本通俗三國志 一編 十冊

葛飾戴斗画
次編逢を出来

漢の高祖ふ三百年にて王莽と
いふ者国家を奪ひ一旦漢の世ホ
失ふことまでを西漢といふその比
劉秀といふ人出て漢の世を再興ハ
て光武皇帝と称し東二百年の基
行を起をことまて東漢といふべく此
後漢の十二代霊帝のとき政ホ至つく
政事乱れ黄巾の賊おこりて都を
責んとそその頃都ホの董卓と
いふ者天子の内宮十常侍の悪人
を殺して天下の権柄をうばく天
子城ふのがれ玉ふにこれ
をうばひ貂蝉といふ美人をもつく
董卓亡び世を治めんとするホ
其殺害李傕郭汜再び王允を
打ち長安をとりこめ曹操
大軍をもよをして長安を救ひ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

献帝を守護するを名として恣に
権をふるふ事を深悪して人人周
瑜魯粛等をして江南の地をひらき
まさに備玄徳といふ人其勇にして
賢かりしが関羽張飛といふ豪
傑と桃園の義をむすび艱難辛
苦して後荊州を得て身をおこすの物
ざうその中より関羽の英男夫人を
くすりて五関やぶりの威風十里を
独歩しまさに玄徳が臥竜孔明を味
方にせさんと三度草庵をとぶ孤
雪風の寒きに及びて孔明が屋
ぐ天下の三分を定めてこれをみる
趙雲長坂坡に勇をふるひて
幼君を主てをそひ張飛が大音曹
操の百万騎を擒の上まで叱り分て
去らしめ孔明呉の国にいたりて
大論一はたふ周瑜と合体して
三江は大軍をとどめさせ連環のも

ようと曹操の舟をもやはせざる
をうけ孔明一七星壇に
東南の風をいのり八十三万の雄兵を
赤壁に焼すて関羽義にうつて曹
操をとらさまた孔明趙雲に錦嚢の
謀をさづけて呉の国より玄徳をすく
ひ周瑜をして死せしめ四郡を略
さんそもそもこの次第は玄徳の謙
盛になりて蜀の国をとりて位に
即一照烈皇帝と称せ東漢の
十四代百九十五年めに曹操の
子曹丕のために呉魏蜀の三国となりぬ
感てわれ止事なり玄徳の仁政孔明の奇謀千載
ふのひはなしことをさとひ天下の
善悪をのづから明らかなり旦この
書本い前賢のあやまりを正して
彫刻のつとめ是又人を画るに
ふかい珍重深くべし

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

繪本西遊記　初編十巻
二編同
三編同
四編同

全本四十巻ありて満尾

いむしん名意馬心猿のたとえう説ありしるきらめくきえんや奇代の製作三蔵法師原子者という神猿孫悟空の外小八戒沙滑の徒弟を率ゐて西天へ往文をとりかえりまでの山川万里の艱難辛苦異類異形の妖魔と退治し孫悟空の神通力にも及ざる化物おおく三蔵去師をなやめる話あるは孫行者の神通金斗雲という雲にのりて東海おおうう翻せば世音菩薩むくり感覚そもぶり種々の奇談説多く数十里の山海を経て終に天竺にいたり本意をとげるのおもしろき人世一心の用心となる教訓なり

水滸画傳　初編二編十巻

曲亭馬琴譯
葛飾北齋画

もとより水滸伝の小説中第一の物語なるをもとりて作りそえたる馬琴先生の筆削ぜんぜんたる水滸伝注解和歌の中はしてこの画本を第一とせべし

水滸画傳　三編五冊

高井蘭山補
北齋為一画

四編　五冊
五編　五冊
六編　五冊
七編　五冊

ゆくゆく次刻して百回そろく全本とあらんとぞ着官も稽覧あらく望むと丹誠の功を遂ん事のべとのみ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

繪本國性爺忠義傳
前後二十三卷

豊臣太閤朝鮮を征伐まつりへ
とう大明国へ攻入給ひしが其
戰ひ北の方寒く難渋ありしが
後和朝の軍兵引取ぬれば三年過ぬの
大明のつく〳〵舌き萬暦帝酒色に耽
まつて政事をうるおろそかに崇禎帝位を
うけて国のさうも安きこと多年こゝ
於て李自成といの者陝西の地より
早くも河東の地にうつり攻入る
宋孩子といの軍士う謀をもひ入
明軍を打やぶり燕京をとりつめ
ろく創業ありて都を称しく宮
殿を立ひ大軍をもつて都の廻り
登り竟ぬ天子を亡して李自成一
旦国王となる大明といの国の十七代
二百八十一年ゆゝしきありさまなれども

呉三桂といの忠臣の大名韃靼の
軍勢をかりて李自王の賊兵をや
ぶり国の仇をはらさんの時韃靼の
大将明国の都へ来りて明の都
をとりまきこむるそこでより明の子孫
万暦帝の孫に当る鄭芝龍といの者を
大将として清軍韃靼を破うと
しびくつりさまでも大明の代絶
ず期の字すうろうけんとう清軍
きらく明帝如何令ごうぜ隆武
帝位と継さまびゝふ四百余州の十
分一で保ちがたしこのまん鄭芝龍の
子鄭森といの日本長崎に生
まれありて父の国へ入清軍をせ
ねぢふせ初の国へ入清軍をせ
るの大将となりすぐれその母神国
の血脈と勇猛武略兼備するの
ゆへあるべし清の大軍をやぶり
て明の国風を興し一国を引めんと
するおいさましきも帝位をうしなふ

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』 請求記号 865-2
ガラス使用

もどりて再度乱をおこさんとせしも其の国民の父母のごとく
敬ふ国性爺と称したのち永暦帝をたすけ辛く亜輝皇と
よぶ豪傑をもつて南洋鳴門せり安海城をうばひ泉州の
大功をたてたるとの人口にも明国の運乱
しきたるの万事ちりぢりに成て大
窓とりの北か捕てより病死をえ
うまでも清軍をその地を責るを
うるを国性爺より三代目ふいさ
いく和睦おおよそ世の名を来
代かのやうにそのあらわれ日本国へ加
勢をたのみまた和軍を借く清兵のと
きたるとうごとくのごとく
唐土にあらくの朝鮮より国宝
して和朝を地をと日本生せの国性
爺をもうまでもなく
美談物ー

琉球軍記　全十巻

清俗奇聞　全六巻

大明国亡びのち当時の清朝の
風俗をうつしもせ書けり

唐土名勝図會　全六巻

漢朝へさらしうの捕うらく彼
地のことを眼前みるごとし

通俗俳聞録　前後十二巻

六樹園大入譯
葵齋笑泉画

唐土の公事明断奇談をあつめ
識に珍説との人書あり

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

繪入ヶ外題鑑　後編　中本の部　一冊

讀本外題鑑

おほよそ素堂童幼の愛觀ものゝ中形本の外題ことさらおほく集めその本の中にとゞめおわり記しそのかりしんぜう書目けだし六人情めで好まむの御方の便とうるはしと多くおり七五三目の續て出板ありこと思ひ出し繼ことゝりおいでさふらふ書の一題をも見洩して甚だ遺憾を知るもの調ふるに先以前ふるまれる仕へ本と思ひ出しらつの記憶とゝりのひいきうらぐさよ中所本まで著作わそべりの種本ともなり此後編拾遺續編餘興のおり武州つき何ありのことのいとの數ゝ

して本屋へ出板文の部のたうとかりえ遠国他国の御方より販元へ申用せ仰せまいらるの見識一世士人への御覺書のたなけと着官ハよふ及ぶ貴本の御方ハなくそふらふ世懐中の小本ふるべらふ世ハおりさふらふのより

寛政年中より天保の末に至る迄江戸
戯作者画工の名目その大略を左に
作者　山東菴京傳
、式亭三馬
、立川焉馬
、振鷺亭主人
、咸和亭鬼武
、十返舎一九
、小枝繁
右ところ〴〵故人となる
作者　曲亭馬琴
、爲永春水
、松亭金水
、墨川亭雪麿
、瀧亭鯉丈
、花笠文京
、文亭綾継
、山東京山
、柳亭種彦
右の当時ところ〴〵流行の先生なり

この外二代目の人々もまた千風のごとし
大人もこの外に多の名目を後編にのせ
の末にところ〴〵出す
浮世画師　歌川豊春
、歌川豊國
、歌川豊廣
、歌川國安
、歌川國九
、歌川豊清
、柳川重信
右いづれも名人の画先生多分
惜むべし故人となる
浮世画師　葛飾爲一老人
、歌川國貞
、蹄齋北馬
、二世柳川重信
、歌川國芳
、歌川國直
、渓齋英泉
右は当時ところ〴〵流行の画大人

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2
ガラス使用

19854

あり尤作者とかりそめ画工の名さへ
みもむそかゝすてこゝに終へこゝ
老あとの名こゝ人名のこゝ生あるすり
猶そこゝくへ作者画工の名目こゝ
小のこゝ一奉人世

右外題鑑の撰集
ハ此の一紀にしるしたるほこゝ
ハ此の一紀にしるしたるほこゝ

東都撰者
文溪堂
岡田琴秀著述

教訓亭
鵜鶏貞高補正

天保九戊成年仲秋發行
江戸備書
松亭主人金水浄書

全志發行書林

京都
山城屋佐兵衛
九大字屋善兵衛
大字屋得五郎
本屋宗七

大阪
河内屋茂兵衛
河内屋長兵衛
河内屋太助
塩見屋宇兵衛
伏見屋嘉兵衛
秋田屋市五郎
河内屋平七

江戸
岡田屋嘉七
泉屋市兵衛
小林新兵衛
丁子屋平兵衛

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『外題鑑』　請求記号 865-2

ガラス使用